

カンボジアの全ての子どもたちのための学校保健サービス創生事業

School Health Development Project for All Cambodian Children

2021 年中間報告 (2021 年 5 月 26 日作成)

2020 年 1 月より日本財団の助成により「カンボジアの全ての子どもたちのための学校保健サービス事業」を開始した。本事業は、東京学芸大学を拠点とする日本側と本事業の現地事務所及び KIZUNA を拠点とするカンボジア側とで取り組んでいる。2021 年 1 月から 5 月中旬までに本プロジェクトで行ってきた業務を報告する。

主な内容は、教員養成大学 (TEC) における小学校教諭養成コース用テキストの作成、学校保健担当教員の研修、TEC における中学校教諭養成コース用のシラバス作成、ニュースレター第 2 号の配信、カンボジア人留学生のインターンシップ受け入れ、東京学芸大学生による国際学校保健活動、KIZUNA の学校保健事業に対する助言、カンボジアオフィスにおける現地調整業務である。その概要を以下に示す。

1. プロジェクトの主な進捗の概要と見通し

全体の進捗状況を資料 1 のガントチャートに示した。

小学校教諭養成コース用テキストの作成は、現状では、およそ 1 か月遅れで作業が進んでおり、5 月末頃に日本語原稿が終わり、英語翻訳が 7 月初旬頃まで、クメール語版の完成は 8 月末頃となる見込みである。

当初の予定では、4 月中に 17 章分の日本語版の原稿が終わり、5 月から 6 月にかけて英語翻訳を終え、順次クメール語翻訳を依頼する予定であった。想定していたより、性教育を含む思春期の心と体の変化の 11 章、学校安全と危機管理の第 14 章、心の健康の第 12 章など内容構成が難しく、検討に時間を要したこと、著作権の件で最初の章からイラストや図を見直して、作成しなおしたり、転載許可を申請したりするなど作業が増えたことが主な要因である。

学校保健担当予定教員に対する小学校教諭養成コース用テキストの研修は、第 1 章、第 2 章(6 月末実施予定)、第 3 章、第 4 章 (6 月末実施予定)、第 5 章まで修了または修了見込みである。リモート研修となったため、教員候補者のインターネット受信状況が必ずしも良好ではなく、一度に多くの章の研修を集中して実施するのは困難となった。

中学校課程の学校保健テキストと Moyes への学生募集の申請のスケジュールについては、4 月に PTEC のセト・セン学長と今後の見通しを共有した。それに基づき、6 月初旬に 30 単位の科目構成を確認し、授業科目概要を作成し、6 月中に TEC の管理職と協議して科目構成を決定する。シラバスの作成も順次行い、7 月末には TEC と協議して合意できるように進めている。

2021 年 11 月に小学校教諭養成コース 4 年生の授業が開始される予定であるが、学校保健の授業は後半のⅧ期に行われる予定なので、クメール語版のテキストの作成とナショナルワークショップの開催、17 章分の教員研修は、完了させることが可能である。

2. TEC における小学校教諭養成コース用テキストの作成

小学校教諭養成コース用テキストの構成は、現在以下の 17 章である。教科教育に関しては、別冊テキストとする予定である。

はじめに 挨拶、テキストの目的、特徴	第 1 章 健康とは
第 2 章 体のしくみと働き	第 3 章 子供の成長・発達
第 4 章 身の回りの清潔・衛生と健康	第 5 章 生活習慣と健康
第 6 章 生活習慣病の予防	第 7 章 感染症の予防
第 8 章 目と歯の健康と予防	第 9 章 身体測定・健康診断の意義と方法
第 10 章 薬物の健康影響	第 11 章 思春期の心身の変化

第12章 心の健康

第13章 環境と健康・エコヘルス

第14章 学校安全と危機管理

第15章 応急手当の理論と実技

第16章 障害とは

第17章 カンボジア学校保健の未来

別冊 教科教育（保健教育とは、指導のポイント、指導案のサンプル）

このうち第1章、3章、4章、5章、7章、16章はクメール語翻訳が終わり、TEC 教員による校正作業を経て、教育省学校保健局へ内容確認依頼を出した。2章、6章は現在クメール語翻訳を行っている。8章、9章は英語翻訳が終了し、執筆者による内容確認作業中である。12章は現在英語翻訳を行っている。10章、11章、14章、15章は日本語原稿を作成し、編集作業中である。13章、17章、教科教育は現在執筆中である。

各章のイラストはソーシャルコンパスに依頼して、打ち合わせと修正を行いながらオリジナルなものを作成している。現在までに11章分の発注が済んでいる。原稿執筆の遅れから、納期を6月末に延期した。レイアウトは現地レイアウト会社にデザインを依頼予定である。レイアウトの方向性は仮確定されている。

執筆にかかわるテキスト会議開催記録を資料2に示した。

3. 学校保健担当教員の研修とマスタートレーナーの選抜

(1) ホームワークの出題と検討事項

ワークショップ外でも学校保健への理解を深める機会を提供するために、2021年2月にホームワークの課題を出題した。すでにクメール語原稿が完成している第1章の章末課題に取り組み、レポートを提出するものである。配布した課題を資料3に、提出されたレポートの一部を資料4に示す。提出されたレポートに対しては、コメントをフィードバックした（資料5）。提出状況が悪かったため、次回からポイント評価を導入する、TECの管理職に提出状況を把握してもらうなどの改善策を検討している。

(2) 第3回学校保健ワークショップの開催

2021年3月29日と30日の2日間、オンラインにて第3回学校保健ワークショップを開催した。参加者はブノンペン TEC とバットタンバン TEC の学校保健担当候補教員計16名、各 TEC マネジメントメンバー、東京学芸大学関係者、カンボジアオフィスであった。ワークショップでは、東京学芸大学関係者3名が小学校教諭養成コース用テキストの内容に基づき「子供の成長・発達」と「生活習慣と健康」に関する講義を行った。プログラムを資料6に、講義資料（日本語）を資料7と資料8に示す。

参加した学校保健担当候補教員16名へのアンケートでは、ワークショップの長さについて、「短い」と回答した者が7名、「丁度よい」と回答した者が9名であった。難易度については、「簡単」と回答した者が7名、「理解できる」と回答した者が9名であった。

(3) マスタートレーナーの育成

今後、TEC 学校保健担当候補教員の中で、学校保健のリーダーとして教員研修の講師を担当できるマスタートレーナーを育成する予定である。各 TEC から2名ずつ選抜し、特別講義や日本研修を経て、実際に研修を担当してもらう。マスタートレーナーの募集要項を作成した。現在、日本側において CV や語学レベル、ワークショップ・家庭学習課題への取り組み状況等からふるい分けを行っている。募集要項の項目については TEC と協議し、公式文書で公表して、6月以降選抜を行う。募集要項・選抜スケジュール案を資料9に示す。

4. TEC における中学校保健教諭養成コース用のシラバス作成

4年間の科目構成案は完成し、おおむね TEC の承諾を得ているが、6月中に TEC の管理職と協議して科目構成を決定する。各科目のシラバスは、担当者によって授業計画が作成されているが、改めて検討し、7月末には

TEC と協議して合意できるように進める。TEC の承諾がとれた科目から、テキストの執筆を開始する。4 年間の科目構成案を資料 10 に、これまで作成した科目の授業計画案を資料 11 に示す。

なお、4 年間で教える専門科目は 30 単位 (30 科目) と多いため、現在の案では、フィールドスタディ 2 単位 (2 科目) を組み入れている。残り 28 科目 (28 単位) のテキストを作成しなければならないため、籠谷恵氏 (東海大学講師) と安藤めぐみ (株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング) の 2 名をテキストの執筆者に加わってもらうよう依頼している。2 名とも養護教諭免許をもった博士号取得者である。籠谷氏は養護教育学、安藤氏は国際学校保健学が専門である。この 2 名には、KIZUNA の保健室設置についても、助言メンバーになってもらっている。

中学校保健教諭養成コースの開講に関しては、2021 年 4 月 12 日にプノンペン TEC 学長と副学長との打ち合わせを行い、TEC 側の意向や今後のスケジュールを確認した。開講時期は、新型コロナウイルス感染症の影響等から現時点では未定であるが、シラバスが完成次第教育省への報告を行い、学生募集と教官の増員を申請したいと学長より申し出があった。

中学校の保健教諭養成コースの開講時期は、教育省が行ったワークショップのロードマップによると 2022 年中にシラバスの作成、2023 年にテキストの作成、2024 年 11 月にテキストの印刷が想定されている。この計画通りに進めば、最速で 2024 年 11 月から第 1 期の教育が始まり、2028 年 9 月頃に卒業生がでることになる。しかし、先に述べたように、PTEC のセト・セン学長によると、保健教諭養成コースの学生募集の時期は未定であり、今後の交渉である。

5. ニュースレター第 2 号の配信

2021 年 4 月 30 日にプロジェクトニュースレター第 2 号を配信した。カンボジアにおける主な配信先は、TEC 学校保健担当候補教員、TEC マネジメントチーム、学校保健局である。現在、カンボジア側への活動報告のほか、カンボジア側と日本側の交流としての役割を兼ねている。本号には各 TEC のマネジメントチームの挨拶、第 3 回学校保健ワークショップ開催報告、東京学芸大学関係者及び日本財団のメンバーの自己紹介を掲載した。使用言語は英語とクメール語である。英語版を資料 12 に示す。これはプノンペン TEC の Facebook でも紹介されている (<https://www.facebook.com/ptec.edu/posts/4290908380973577>)。

6. カンボジア人留学生のインターンシップ受け入れ

2020 年 11 月から 2021 年 1 月までの 2 か月間、本プロジェクトに関心を持った長崎大学大学院 熱帯医学・グローバルヘルス研究科の修士課程で学んでいるカンボジア人留学生 2 人をインターンシップ生として受け入れた。熱帯医学・グローバルヘルスを学んでいるので、基本的な公衆衛生に関する知識を持っている。そこで、クメール語翻訳が終わった章の内容とクメール語の確認とキーワードの抽出を 2 人で分担してもらった。クメール語翻訳者は公衆衛生や学校保健に関する専門知識があるわけではないため、留学生に専門用語の翻訳等の代替案を提案してもらったことは、質の高いテキストを作成していく上で重要なサポートであった。

7. 東京学芸大学生による国際学校保健活動

東京学芸大学教育学部養護教育専攻の学生のうち、国際学校保健に関心のある学生 (3 年生 1 名、2 年生 2 名、1 年生 7 名) がプロジェクトのサポーターとして活動している。主な作業内容は、学生の視点から小学校教諭養成コース用テキストの日本語原稿の難易度を確認すること、テキスト各章の確認テスト作成することである。カンボジアへの渡航が可能となれば、スタディツアーを実施する予定である。

8. KIZUNA の学校保健事業に対する助言

(1) 中学生向け保健授業用教材への助言

KIZUNA とソーシャルコンパスが共同で作成している中学生向けアニメーション教材・紙芝居の内容について、日本側のテキスト執筆者から助言をした。基本的には、このプロジェクトで作成しているテキストの内容を簡潔に伝えるアニメーションであるため、テキストの内容の観点からアドバイスを行っている。

(2) ベースライン調査への助言

KIZINA が実施予定の中学生の健康状態や生活習慣、地域状況のベースライン調査について、Global School-based Student Health Survey (GSHS) をもとに調査項目や実施方法について助言を行っている。今後、分析方法についても助言を行う予定である。

9. カンボジアオフィスにおける現地調整業務

- 2月にキズナの現役教師への保健授業用教材の紙芝居トライアル授業のため、本プロジェクトの保健指導者候補である TEC 教員 2 名とともにコクコン州の中学校 2 校で 1 回目のトライアル授業を行った。
- 3月 29 日と 30 日の 2 日間、第 3 回目のトレーニングワークショップをオンラインにて開催。当初は PTEC と BTEC に教員が集まり、オンラインと現場でのグループワークのハイブリッド型で準備を進めていたが、カンボジア国内のコロナ感染状況の悪化により完全オンラインとなった。
- 今後のスケジュールを確認するために、4月 12 日に東京学芸大学側と PTEC 学長と副学長との意見交換を行った。
- 第 4 回目のトレーニングワークショップを 6 月中に開催予定。マスタートレーナー育成に向けた要件・スケジュール等を作成し、5 月中に TEC と協議予定。
- 4 月初頭、TEC 教員による 6 章分のクメール語校正が終了したので、教育省学校保健局に第 1 回目の確認出しをした。確認は全 3 回を予定している。
- レイアウト会社にデザインを依頼し、レイアウトの方向性が仮確定した。